

論文番号	6 (第 11 回研究会 2013.11.23 於 恵泉女学園大学)
タイトル	日本語教育における非対面コミュニケーションの取扱いに関する一考察
著者名 (所属)	佐々木泰子・船戸はるな・佐々木實雄 (お茶の水女子大学・お茶の水女子大学・日本大学)
連絡先Eメール	sasaki.yasuko@ocha.ac.jp, haruna-f@dmail.plala.or.jp, sasaki.mitsuo@nihon-u.ac.jp

論文内容

(背景および研究目的)

近年、Facebook や LINE、Twitter などの SNS の急速な普及により、若者を中心に非対面コミュニケーションの比重が増している。SNS の有効利用は、留学生にとってもネットワーク作りに欠かせないものとなっていることが推測される。本研究では、異文化間のコミュニケーション教育への示唆を得ることを目的に留学生の非対面コミュニケーションなかんずく SNS を利用したコミュニケーションの実態を日本人大学生と比較しつつ明らかにすることを課題とした。

(検討方法等)

調査対象は、大学で学ぶ留学生 (19 歳～40 歳) 192 名 (中国 100 名、タイ 19 名、韓国 18 名、台湾 13 名、他 23 か国 42 名)、うち男性 70 名、女性 122 名及び日本人大学生 (18 歳～25 歳) 236 名、うち男性 54 名、女性 182 名である。調査はインターネットによるアンケート調査で、2013 年 7 月及び 8 月に実施した。

(結果および考察)

調査の結果、表に示すとおり、留学生は日本人大学生と比べて多様な非対面コミュニケーションメディアを利用していることが明らかになった。留学生は日本人だけでなく同国人の友人や海外の家族や知人とのコミュニケーション手段としての SNS が重視されているのに対し、日本人学生は仲間内のコミュニケーション手段としての LINE 等 SNS の使用が顕著である。

表 コミュニケーションメディアの種類と使用傾向

コミュニケーションメディア	1.電話	2.SKYPE	3.Eメール(モバイル)	4.Eメール(PC)	5.SMS	6.LINE	7.twitter	8.facebook	9.QQ	10.人人網	11.微信	12.微博	13.QQ空間	14.カカオトーク	15.google+	16.カカオストーリー	17.Foursquare	18.使用なし
留学生	81	58	68	76	28	78	17	75	42	24	23	23	20	20	15	8	2	0
日本人学生	82	31	84	52	32	92	75	54	0	0	0	0	0	7	11	1	1	0

数字は%

さらに自由記述からは SNS の利用に際して、留学生は日本語使用への留意が顕著なのに対し、日本人大学生は内容や不特定多数が見ていることを意識していることが分かった。また、両者ともに日本人が相手の時のほうが注意深く交流している。

(結論)

本調査結果から、異文化間の非対面コミュニケーション教育ではコミュニケーションメディアのそれぞれの特性への留意だけでなく文化要素に対する配慮への指導の重要性が示唆される。

(付記)

本研究は、科学研究費補助金研究「多文化社会におけるコミュニケーションとソーシャルネットワークの構築に関する研究」(平成 24 年度～26 年度 課題番号 24520568 研究代表者 佐々木泰子) による研究の一部である。

参考文献

Yus, F. (2011). *Cyberpragmatics: Internet-mediated communication in context*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.